infinity～mirage 上位・下位蜃気楼の変化

戸髙一雄・吉田博義（魚津蜃気楼研究会）

2021 年に黒部市美術館で行われた展覧会「山下麻衣＋小林直人「蜃気楼か。」」で出品された《infinity～mirage》は、富山湾の蜃気楼とともにつくる作品であった。《infinity～mirage》は、黒部市生地の護岸に「m」型看板を設置し、対岸の魚津などから観察すると「m」と下位蜃気楼によって看板が下に反転した「ɯ」像とがつながり「∞」が作られる作品でした。2023 年 4 月から 2024 年 3 月にかけ、黒部市美術館・魚津埋没林博物館《infinity～mirage》により再設置されることとなったので、これまでに魚津や滑川から見えた蜃気楼による「m」の変化を報告する。

普段の「m」（2023 年 4 月 28 日 9 時 41 分）

2021 年は 9 月から 12 月にかけ設置されたため、下位蜃気楼による「∞」の変化が主だった。

下位蜃気楼「∞」（2021 年 10 月 3 日 10 時 34 分）

2023 年は春から設置され、海の駅蜃気楼からは上位蜃気楼により、「m」がさまざまな形に変わる様子が見られた。「m」の上に反転した「ɯ」、さらに反転した正立「m」とで「∞」を観察できた（下写真）。また、黒部からさらに距離が離れた滑川から見ると、さらに多像化した複雑な変化を観測できた（右写真）。

上位蜃気楼「m」滑川市笠木海岸より（2023 年 4 月 28 日 13 時 31 分）

上位蜃気楼での「m」は、見たことがない変形がみられるので面白かったが、その変化は早かった。また、滑川など各地に散らばって撮影比較することが面白そうだ。特に下位蜃気楼による「m」の変化は長く続くので各地からの観測が行いやすいと考える。

上位蜃気楼「m」海の駅蜃気楼より（2023 年 4 月 28 日 13 時 03 分（左）、13 時 04 分（右））